

1月10日

心理社会的ケアの専門家て構成されたユニセフの現地チームが、津波によって心に傷を負った子どもへのサポートを行い、教師や親を対象に心理的ケアについての研修を行っています。



はしか予防接種キャンペーンが始まり、ワクチンが備蓄され、1月15日 予防接種チームが各地域へ派遣されました。



マラリアは、感染すると幼い命を奪いかねない病気です。4月 ユニセフは、インドネシアに住む7万2,000人の母親と子どもへマラリア予防のための蚊帳約3万6,000張を配りました。また、インドやその他の被災地域に同様の支援を行いました。



1月12日 ユニセフ親善大使のディビッド・ベッカムさんは、津波によって被害を受けた地域への緊急支援を呼びかけるために、ユニセフ・グローバル・TVキャンペーンを立ち上げました。



1月26日

津波発生から1ヶ月。ユニセフの「スクール・イン・ア・ボックス」キット（学用品セット）が届けられ、ユニセフが提供した学校用テントで授業が再開。70%の子どもたちが学校に再び通いはじめました。



3月26日

津波が発生してから3ヶ月が過ぎましたが、予防可能な病気、水の不足、適切な衛生設備の欠如が原因で命を落とした子どもは一人もいません。民間からの募金は4億4,200万米ドルに達し、ユニセフの活動も災害発生直後の緊急支援から復興支援へと移行しました。

